

経営比較分析表（令和4年度決算）

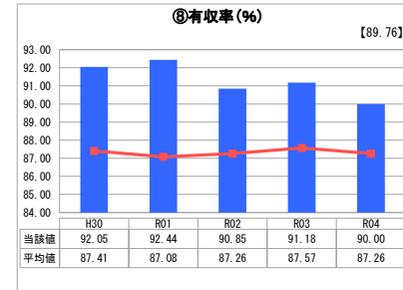
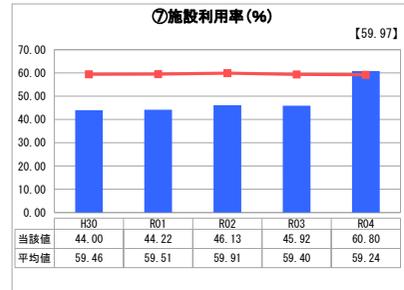
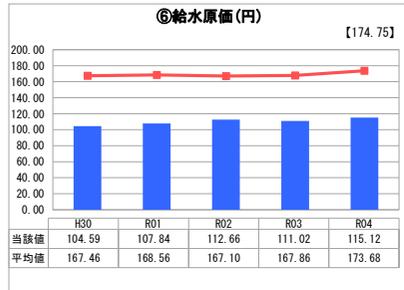
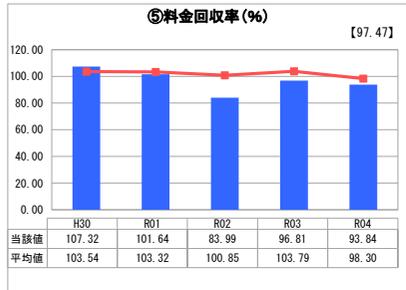
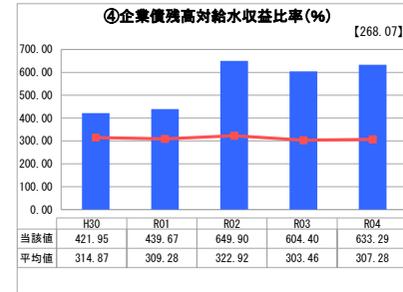
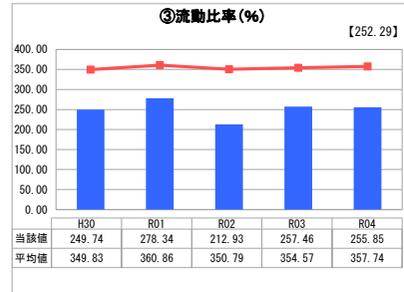
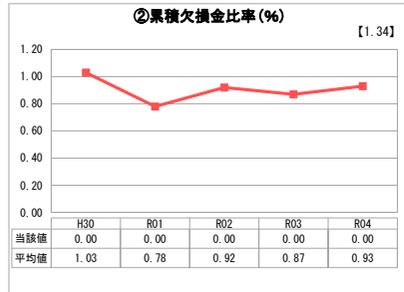
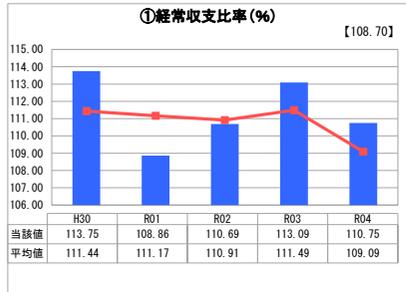
石川県 白山市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A4	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり客単料金(円)	
-	57.49	85.85	2,018	

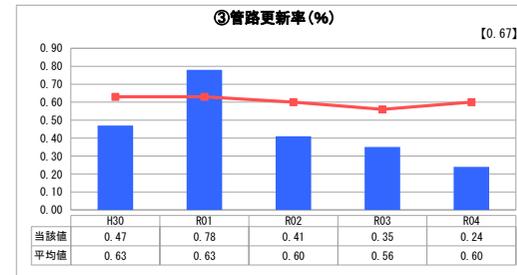
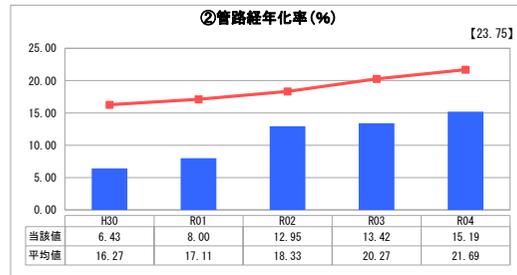
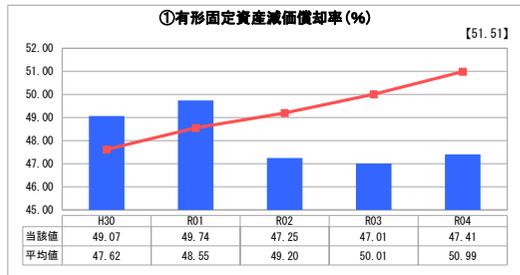
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
112,916	754.92	149.57
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
96,695	55.81	1,732.57

グラフ凡例	
■	当該団体値（当該値）
—	類似団体平均値（平均値）
【	令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率については黒字を示す100%以上を維持しており、また、給水原価については類似団体と比較して低い水準を維持している。料金回収率については、料金単価が安い白山ろく簡易水道と統合したことで大幅に下がったが、R3、5、7年で段階的に単価を上げていっており、徐々に回復する見込みである。しかし、公営企業を取り巻く環境は年々厳しくなっており、引き続き安定した経営状態を保てるよう更なる経費の縮減を図っていく必要があると思われる。

給水収益に対する企業債残高は類似団体と比較して高い水準にあることから、今後は施設の更新などにあたって、自己資金の活用と企業債の発行のバランスを考慮していく必要があると思われる。施設利用率は類似団体と比較して低い水準であったが、周辺の民営簡易水道の統合を順次進めているため利用率が増加した。

2. 老朽化の状況について

管路経年化率は類似団体よりも低い水準であるが、耐震化等の優先すべき事業の実施と合わせて、老朽化施設の更新も着実に進めていく必要がある。今後は経営の健全性も考慮しながら、アセットマネジメントの強化などにより効率的な更新を進めていきたい。

全体総括

経営状況は比較的良好であると思われるが、固定資産の老朽化が一段と進み、管路更新等の資金需要が大幅に増加するため、アセットマネジメントの強化とあわせて、自己資金の活用と企業債とのバランスを取りながら、現在の経営状況を維持していくことが重要である。